

(別紙2)

## 審査の結果の要旨

氏名 孫 炳 圭

本論文は朝鮮・李朝後期（17－19世紀）の地方財政史を、国家財政との関連、諸財源の把握とその徴収、地方財政体制の担い手等の諸側面から総合的に明らかにしようとしたものである。

全体は序論と三つの編から成っており、従来の研究史と本論文の構成が述べられている序論に次いで、以下のように構成されている。第一編では李朝財政の全体像、国家財政と地方財政との関連、およびその諸特徴が述べられている。第二編では地方財政業務の展開過程が、田政・軍政・還政のいわゆる三政について個別に明らかにされ、国家財政の集権化傾向と、それに対応した地方財政の構造変化が究明されている。第三編では地方財政の具体的な運営過程が、豊富な地方事例に基づいて明らかにされるとともに、地方財政運営における在地両班の役割が述べられている。

本論文の意義は以下の三点にあると判断される。1) 李朝時代の地方財政史という未開拓の分野に挑戦し、国家財政との関連でその諸特徴と、18世紀を前後する段階的変化を明らかにしたこと、2) 地方財政を構成する諸要素を包括的にかつ相互関連的に明らかにしたこと、3) 専制国家における財政のあり方を具体的に明らかにすることにより、中国史や朝鮮近現代史に対しても比較の視座を提供したこと、以上である。

個々の記述が十分にこなれていないことや、大きな枠組みを支えるだけの実証が必ずしも十分でないこと等の欠点も見られるが、それらは博士論文としての価値を損なうものではないと思われる。よって審査委員会は本論文が博士（文学）の学位を授与するに相応しいものと判断した。